

今日の説教のポイント <エフェソの信徒への手紙5章6～20節

①分かりやすそうで、「あれっ」と思うことが出て来る箇所。

「光の子として歩みなさい」(8)という魅力的な表現が出て来る箇所です。しかしその直前では、「あなたがたは、以前には暗闇でしたが、今は主に結ばれて、光となっています」(8)とされています。私たちが闇や光の中を歩むというのではなく、私たち自身が闇や光だということでしょうか？ また、「古い人を脱ぎ捨て、新しい人を着た生き方」(4:17以下)を追って来ましたが、今日の箇所は全体的に道徳的なことを教えているように思いますが、そういう理解でいいのでしょうか？

②ポイントは「主」。すなわち、イエス・キリスト！

確かに「光の子として生きよ」と言われているのですから道徳的なことを教えているのですが、後半の「生きよ」ではなく前半の「光の子として」にこそ目を向けなければなりません。すなわち、光=主、イエス・キリストにです！ 「今は主に結ばれて、光となっています」(8)の「主に結ばれて」の直訳は「主の中で：in Lord」ですし、「何が主に喜ばれるかを吟味しなさい」(10)、「主の御心が何であるかを悟りなさい」(17)、「主に向かって心からほめ歌いなさい」(19)、「主イエス・キリストの名により」(20)と、すべて、光として生きられるのは主イエス・キリストに聞いて生きるときに可能なのだ、とされているということを指し示しているのです！ 決定的なのは「～起きよ。～立ち上がれ。そうすれば、キリストはあなたを照らされる」(14)です！ これは初代教会で洗礼が授けられる時に唱えられていた言葉だと言われています。

③あわせて見ておきたい聖書の箇所 — 闇と光の意味を解く箇所！

この箇所を理解するのにぜひ見ておきたい箇所があります。ヨハネ福音書3章16～21節（特に19～21節）、コリント書Ⅱ4章1～6節（特に6節）です。悪い者も含めて全ての者がイエス・キリストの前に出ることで光となること(今日の13-14、20節。大事!)は、パウロに起こった出来事で見ることができるのです（使徒言行録9章1節以下）！